

厚生労働大臣 殿

管理者名 防衛医科大学校病院長

望月 英

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	56人
--------	-----

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	216人	42人	218.1人	看護業務補助	32人	診療エックス線技師	人
歯科医師	9人	2人	9.1人	理学療法士	3人	臨床検査技師	35人
薬剤師	20人	人	20.0人	作業療法士	2人	臨床検査衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	3人	査その他	人
助産師	18人	人	18.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	373人	12人	378.6人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	人	1人	0.1人	栄養士	人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	人	1.0人	歯科技工士	2人	事務職員	34人
管理栄養士	5人	人	5.0人	診療放射線技師	21人	その他の職員	12人

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	502.5人	10.1人	512.6人
1日当たり平均外来患者数	1,307.4人	49.1人	1,356.5人
1日当たり平均調剤数			596.6剤

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージ又はIIの乳がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類III度又は同分類IV度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(ステューブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植を受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャージャー病(重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時)に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍搔爬術後若しくは骨髄炎搔爬術後の症状に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類Ib期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
光トポグラフィ検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。))	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齶蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫 ^{又は乳がん} におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	46人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ペリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHIF)例であって、胸腔穿刺後一週間に降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	19 人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	8 人
・多発性硬化症	28 人	・ウェグナー肉芽腫症	1 人
・重症筋無力症	31 人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	11 人
・全身性エリテマトーデス	81 人	・多系統萎縮症	12 人
・スモン		・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	
・再生不良性貧血	6 人	・膿疱性乾癬	2 人
・サルコイドーシス	26 人	・広範脊柱管狭窄症	人
・筋萎縮性側索硬化症	4 人	・原発性胆汁性肝硬変	16 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	41 人	・重症急性膵炎	8 人
・特発性血小板減少性紫斑病	25 人	・特発性大腿骨頭壊死症	10 人
・結節性動脈周囲炎	21 人	・混合性結合組織病	16 人
・潰瘍性大腸炎	70 人	・原発性免疫不全症候群	8 人
・大動脈炎症候群	6 人	・特発性間質性肺炎	2 人
・ピュルガー病	5 人	・網膜色素変性症	6 人
・天疱瘡	5 人	・プリオン病	人
・脊髄小脳変性症	15 人	・原発性肺高血圧症	1 人
・クローン病	40 人	・神経繊維腫症	2 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	人	・亜急性硬化性全脳炎	
・悪性関節リウマチ	5 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・パーキンソン病	65 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	2 人
・アミロイドーシス	2 人	・ライガーム病（ファブリー「Fabry」病含む）	
・後縦靭帯骨化症	15 人	・副腎白質ジストロフィー	
・ハンチントン病	人		

（注）「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に4回程度		
剖検の状況	剖検症例数	36例剖	検率 14.5%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

(単位:千円)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腫瘍における小胞体ストレス応答の解明と診断・治療の研究開発	中西 邦昭	臨床検査医学	4,577	補委 特別研究費
涙腺機能の再建に関する研究	伊藤 正孝	再生発生学	4,379	補委 特別研究費
神経再生～細胞膜”脂質ラフト”の役割の解明と逆行性神経情報伝達を利用した治療応用～	鎌倉 恵子	内科学第三	4,032	補委 特別研究費
DNA切断・修復機能異常による疾患の責任遺伝子同定と機能解析及び診断・治療への応用	野々山 恵章	小児科学	10,164	補委 特別研究費
フォトニック分子治療学に基づく重傷外傷の新規治療戦略の検討	佐藤 俊一	防衛医学研究センター	11,179	補委 特別研究費
Neurovascular microunit機構の解明とこれに基づく分子生体制御に関する研究	西田 育弘	生理学	11,180	補委 特別研究費
マラリア原虫赤内型感染制御機構の解析	宮平 靖	国際感染症学	12,165	補委 特別研究費
肝臓の細胞性免疫および液性免疫による生体防御の分子免疫機構の研究	関 修司	免疫・微生物学	15,967	補委 特別研究費
頭頸部難治性疾患に対する新しい治療法の開発	塩谷 彰浩	耳鼻いんこう科学	16,305	補委 特別研究費
合計			89,948	

計 9

(注) 特別研究費とは、防衛医科大学校において学術振興に寄与するため優れた学術研究を格段に発展させることを目的とした経費

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別添のとおり			

計251

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Heart Journal	Late Gadolinium Enhanced HighResolution Magnetic Resonance Imaging Reveals Pathophysiological Condition of Cardiac Sarcoidosis	Niida Tomiharu, Isoda Kikuo, Sasaki Makoto, Horikawa Masahiro, Hayashi Katsumi, Ohsuzu Fumitaka	内科1
International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics 46(6): p.307-308, 2008.06	Effect of kremezin on early-phase renal dysfunction during treatment with cyclosporin A in systemic autoimmune disease.	Okada Makoto, Suzuki Kimihiro, Matsumoto Mitsuyo, Takada Kunio, Nakashima Masahiro, Nakanishi Takashi, Horikoshi Hideyuki, Higuchi Tomoaki, Hosono Yuji, Ohsuzu Fumitaka.	内科1
Journal of Echocardiology 6(1): p.21-23, 2008.06	Mitral Valve Prolapse and Dural Ectasia in a Patient With Marfan Syndrome	Takiguchi Shunichi, Isoda Kikuo, Miyamoto Morikazu, Komatsu Tomohiro, Touya Takumi, Ohsuzu Fumitaka.	内科1
Journal of Atherosclerosis Thrombosis 16(1): p.51-56, 2009.03	Effects of atorvastatin on nuclear magnetic resonance-defined lipoprotein subclasses and inflammatory markers in patients with hypercholesterolemia.	Ikewaki Katsunori, Terao Y, Ozasa H, Nakada Y, Tohyama J, Inoue Y, Yoshimura M.	内科1
The American Journal of Clinical Nutrition 88(2): p.272-281, 2008.08	Dietary monounsaturated fat activates metabolic pathways for triglyceride-rich lipoproteins that involve apolipoproteins E and C-III.	Zheng C, Khoc C, Furtado J, Ikewaki Katsunori.	内科1
Lipids in Health and Disease 7: p.18-18, 2008.05	Characteristic comparison of triglyceride-rich remnant lipoprotein measurement between a new homogenous assay (RemL-C) and a conventional immunoseparation method (RLP-C).	Yoshida H, Kurosawa H, Hirowatari Y, Ogura Y, Ikewaki Katsunori, Abe I, Saikawa S, Domitsu K, Ito K, Yanai H, Tada N.	内科1
Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 16: p.23-24, 2008.06	Pyogenic Vertebral Osteomyelitis after Surgery for rupture of the Aortic Arch.	Yashiro Nogami, Susumu Isoda, Masafumi Shimizu, Tamizo Kimura, Kimihiro Suzuki, Tadaaki Maehara.	内科1

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Inflamm Bowel Dis. 14(10): p.1348-1357, 2008.10	Omega-3 fatty acids exacerbate DSS-induced colitis through decreased adiponectin in colonic subepithelial myofibroblasts.	Matsunaga Hisayuki, Hokari Ryota, Kurihara Chie, Okada Yoshikiyo, Takebayashi Koichi, Okudaira Keisuke, Watanabe Chikako, Komoto Shunsuke, Nakamura Mitsuyasu, Tsuzuki Yoshikazu, Kawaguchi Atsushi, Nagao Shigeaki, Itoh Kazuro, Miura Soichiro.	内科2
J Gastroenterol Hepatol. 23(8): p.1193-1199, 2008.08	Long-term outcome of endoscopic semiconductive diode laser irradiation therapy with injection of indocyanine green for early gastric cancer.	Kawaguchi Atsushi, Nagao Shigeaki, Takebayashi Koichi, Higashiyama Masaaki, Komoto Shunsuke, Hokari Ryota, Miura Soichiro.	内科2
J Gastroenterol Hepatol. 7(2): p.88-95, 2008.07	Changes in regulatory molecules for lymphangiogenesis in intestinal lymphangiectasia with enteric protein loss.	Hokari Ryota, Kitagawa Yoshitake, Watanabe Chikako, Komoto Shunsuke, Kurihara Chie, Okada Yoshikiyo, Kawaguchi Atsushi, Nagao Shigeaki, Hibi Toshifumi, Miura Soichiro.	内科2
Nephrol Dial Transplant. 23(7): p.2254-2259, 2008.07	Elevated urinary plasmin activity resistant to α 2-antiplasmin in acute poststreptococcal glomerulonephritis.	Takashi Oda, Kikuko Tamura, Nobuyuki Yoshizawa, Tetsuzo Sugisaki, Koichi Matsumoto, Motoshi Hattori, Namikoshi Tamehachi, Muneharu Yamada, Yuichi Kikuchi, Shigenobu Suzuki, Soichiro Miura.	内科2
Microcirculation. 15(5): p.441-450, 2008.07	P-selectin-dependent monocyte recruitment through platelet interaction in intestinal microvessels of LPS-treated mice.	Higashiyama Masaaki, Hokari Ryota, Matsunaga Hisayuki, Takebayashi Koichi, Watanabe Chikako, Komoto Shunsuke, Okada Yoshikiyo, Kurihara Chie, Kawaguchi Atsushi, Nagao Shigeaki, Itoh Kazuro, Miura Soichiro.	内科2
消化器と免疫 44: p.42-46, 2008.06	ビタミンA代謝による腸管リンパ球マイグレーションの調節と治療応用	渡辺知佳子, 穂苺量太, 高本俊介, 中村光康, 栗原千枝, 岡田義清, 松永久幸, 竹林晃一, 宮城みち子, 横山裕一, 日比紀文, 三浦総一郎.	内科2
潰瘍(ULCER RESEARCH) 35(1): p.59-61, 2008.05	NC/NgaマウスにおけるNSAID誘発回腸炎についての報告	岡田義清, 穂苺量太, 加藤真吾, 竹林晃一, 松永久幸, 高本俊介, 渡辺知佳子, 栗原千枝, 川口淳, 永尾重昭, 伊藤和郎, 三浦総一郎.	内科2
Nephrol Dial Transplant. 23(7): p.2254-2259, 2008.07	Elevated urinary plasmin activity resistant to α 2-antiplasmin in acute poststreptococcal glomerulonephritis.	Takashi Oda, Kikuko Tamura, Nobuyuki Yoshizawa, Tetsuzo Sugisaki, Koichi Matsumoto, Motoshi Hattori, Namikoshi Tamehachi, Muneharu Yamada, Yuichi Kikuchi, Shigenobu Suzuki, Soichiro Miura.	内科2
Progress of Digestive Endoscopy 73(2): p.160-161, 2008.12	シングルバルーン小腸内視鏡で診断処置したMeckel憩室出血の1例	丸田紘史, 小林大吾, 高城健, 樋口祥子, 佐藤知己, 佐藤伸吾, 八月朔日秀明, 高本俊介, 中村光康, 穂苺量太, 川口淳, 永尾重昭, 辻本広紀, 上野秀樹, 望月英隆, 三浦総一郎.	内科2

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Progeress of Digestive Endoscopy 73(2): p.156-157, 2008.12	十二指腸球部に竹の節状所見を認めたCrohn病の1例	高城健, 佐藤伸吾, 丸田純史, 樋口祥子, 佐藤知己, 小林大晋, 八月朔日秀明, 松永久幸, 竹林晃一, 奥平圭輔, 高本俊介, 中村光康, 穂苅量太, 川口淳, 永尾重昭, 三浦総一郎.	内科2
American Journal of Human Genetics 83(6): p.744-51, 2008.12	Mutations in SLC2A9, encoding GLUT9, cause renal hypouricemia.	Hiroataka Matsuo, Toshinori Chiba, Shushi Nakagishi, Akiyoshi Nakayama, Hideharu Domoto, Kanokporn Phetdee, Pattama Wiriyasermkul, Yuichi Kikuchi, Takashi Oda, Junichiro Nishiyama, Yuji Morimoto, Keiko Kamakura.	内科2

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Haematologica 93(11): p.1686-93, 2008.11	Impact of ABO-Blood Type Incompatibility on the Outcome of Unrelated Bone Marrow Transplantation through the Japan Marrow Donor Program.	Fumihiko Kimura, Ken Sato, Shinichi Kobayashi, Takashi Ikeda, Hiroshi Sao, Shinichiro Okamoto, Koichi Miyamura, Shin-ichiro Mori, Hideki Akiyama, Makoto Hirokawa, Hitoshi, Ohto, Hiroshi Ashida, Kazuo Motoyoshi.	内科3
Journal of infection and chemotherapy 14(4): p.308-310, 2008.08	Influenza virus reactivation after remission with oseltamivir treatment in a patient undergoing nonmyeloablative bone marrow transplantation.	Shinichi Kobayashi, Fumihiko Kimura, Ayako Kobayashi, Ken Sato, Kazuo Motoyoshi.	内科3
American Journal of Human Genetics 83(6): p.744-51, 2008.12	Mutations in SLC2A9, encoding GLUT9, cause renal hypouricemia	Hirotsuka Matsuo, Toshinori Chiba, Shushi Nakagishi, Akiyoshi Nakayama, Hideharu Domoto, Kanokporn Phetdee, Pattama Wiriyasermkul, Yuichi Kikuchi, Takashi Oda, Junichiro Nishiyama, Yuji Morimoto, Keiko Kamakura.	内科3
Neurology 71(21): p.1683-1690, 2008.11	GM1/GalNAc-GD1a complex: a target for pure motor Guillain-Barré syndrome.	Kenichi Kaida, Masahiro Sonoo, Go Ogawa, Keiko Kamakura, M Ueda-Sada, M. Arita, Kazuo Motoyoshi, Susumu Kusunoki.	内科3
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 79(10): p.1148-1152, 2008.10	Ganglioside complexes containing GQ1b as targets in Miller Fisher and Guillain-Barre syndromes.	Mami Kanzaki, Kenichi Kaida, Masami Ueda, Daiji Morita, Minako Hirakawa, Kazuo Motoyoshi, Keiko Kamakura, Susumu Kusunoki.	内科3
Neurology 71(3): p.196-201, 2008.07	GD1b-specific antibody induces ataxia in Guillain-Barre syndrome.	Kenichi Kaida, Keiko Kamakura, Go Ogawa, M.Ueda, Kazuo Motoyoshi, M. Arita, Susumu Kusunoki.	内科3
European Neurology 60(1): p.37-42, 2008.06	Clinical Features of optico-spinal multiple sclerosis with anti-aquaporin 4 antibody.	Mami Kanzaki, Hitoshi Mochizuki, Go Ogawa, Keiko Tanaka, Manabu Araki, Kazuo Motoyoshi, Graeme Hammond-Tooke, Keiko Kamakura.	内科3
運動障害 18(1): p.15-21, 2008.06	SLE関連脊髄炎の2例	中山昌喜, 本郷悠, 汐崎祐, 田邊肇, 小川剛, 望月仁志, 荒木学, 海田賢一, 徳丸阿耶, 元吉和夫, 鎌倉恵子.	内科3
Jpn J Radiol 27(2): p.107-110, 2009.03	Pulmonary and thymic lymphoid hyperplasia in primary Sjogren's syndrome.	Kobayashi Hideo, Ozeki Yuichi, Aida Shinsuke.	内科3
日呼吸会誌 46(12): p.1055-1058, 2008.12	8年間の経過でair trappingの進行を認めた HTLV-1関連気道病変の一例	三木田 馨, 小林英夫, 叶宗一郎, 尾関雄一, 元吉和夫.	内科3
日呼吸会誌 46(12): p.1045-1049, 2008.12	生活環境変化に応じ病勢が変動した鳥関連慢性過敏性肺炎の一例	原 悠, 小林英夫, 恐田尚幸, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一.	内科3
日呼吸会誌 46(9): p.722-725, 2008.09	MD-CTにより精巣内石灰化を検出した転移性胚細胞腫瘍の一例	三木田 馨, 小林英夫, 恐田尚幸, 叶宗一郎, 元吉和夫.	内科3
気管支学 30(5): p.257-260, 2008.09	予後良好な気管支平滑筋肉腫の1例	三木田 馨, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一, 相田真介.	内科3

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日呼吸会誌 46(8): p.679-683, 2008.08	ツベルクリン反応の陰転化を観察しえた単結節型サルコイドーシス	恐田尚幸, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫.	内科3
日呼吸会誌 46(8): p.640-644, 2008.08	高度の咳嗽と発熱を訴えた胸部X線分類0期サルコイドーシス	大宮 薫, 小林英夫, 叶宗一郎, 恐田尚幸, 元吉和夫.	内科3
Thorax 63(5): p.564-565, 2008.05	Intrabullous blood injection for lung volume reduction	Kanoh Soichiro, Kobayashi Hideo, Motoyoshi Kazuo.	内科3
Biomarkers 13(4): p.385-392, 2008.05	Serum surfactant protein-A, but not surfactant protein-D or KL-6, can predict preclinical lung damage induced by smoking	Kobayashi Hideo, Kanoh Soichiro, Motoyoshi Kazuo.	内科3
気管支学 30(2): p.80-85, 2008.04	陰影が入院後改善し,外泊により悪化したMycobacterium avium症	恐田尚幸, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一, 相田真介.	内科3
日呼吸会誌 46(3): p.202-205, 2008.04	肺動脈と直接連結した特発性気管支動脈瘤/	下川路伊亮, 小林英夫, 河野修一, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一.	内科3
防衛医科大学校雑誌 33(3): p.137-145, 2008.09	バセドウ病の新しい疾患活動性指標としての甲状腺細胞増殖刺激活性.	井原善明, 瀬尾麻里, 渡辺康裕, 田中祐司.	内科3
Audio-Visual Journal of JUA 14(4): p.14-21, 2008.10	高度の肥満を伴う左副腎腫瘍の症例に対して腹壁吊り上げ法と気腹法を併用した1例	伊藤敬一, 浅野友彦, 小坂威雄, 三上洋, 梅田俊, 住友誠, 早川正道, 藤井博子, 田中祐司	内科3
Growth Factors 26(4): p.173-179, 2008.05	Reversal of streptozotocin-induced hyperglycemia by continuous supply of betacellulin in mice.	Yoritsuna Yamamoto, Satoko Yamada, Tutomu Kodera, Akemi Hara, Kazuo Motoyoshi, Yuji Tanaka, T. Nagaoka, Masaharu Seno, Itaru Kojima.	内科3
Neuro-Oncology 18(1): p.22-24, 2008.04	無月経, subclinical acromegalyを呈した下垂体 silent subtype-3 adenomaと思われる1例	苗代弘, 盛田幸司, 藤井博子, 内田香介, 安谷屋徳章, 濱田耕司, 長田秀夫, 鳥克司, 元吉和夫, 田中祐司.	内科3

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Natl Def Med Coll: p.23-29, 2009.03	Solitary jejunal metastasis from esophageal squamous cell carcinoma, a case report	Takuya Horio, Satoshi Aiko, Yoshitaka Kadoma, Norishige Kanai, Takamitsu Ishizuka, Hideyuki Shimazaki, Shinsuke Aida, Kazuo Hase, Tadaaki Maehara.	外科1
日本臨床外科学会雑誌 70(3): p.818-823, 2009.03	術前短期化学放射線療法後に側方領域骨盤内再発をきたした直腸癌の2例	橋口陽二郎, 上野秀樹, 梶原由規, 山本順司, 望月英隆, 長谷和生.	外科1
Annals of Surgical Oncology 16(2): p.311-318, 2009.02	Impact of postoperative infection on long-term survival after potentially curative resection for gastric cancer.	Hironori Tsujimoto, Takashi Ichikura, Satoshi Ono, Hidekazu Sugawara, Shu-ichi Hiraki, Naoko Sakamoto, Yoshihisa Yaguchi, Kazumichi Yoshida, Yusuke Matsumoto, Kazuo Hase.	外科1
Journal of Experimental Clinical Cancer Research 27(1): p.1-5, 2008.12	How should tracers be injected to detect for sentinel nodes in gastric cancer submucosally from inside or subserosally from outside of the stomach?	Yoshihisa Yaguchi, Takashi Ichikura, Satoshi Ono, Hironori Tsujimoto, Hidekazu Sugawara, Naoko Sakamoto, Yusuke Matsumoto, Kazumichi Yoshida, Shigeru Kosuda, Kazuo Hase.	外科1
Journal of Pathology 216(1): p.103-110, 2008.06	Clear-cell adenofibroma can be a clonal precursor for clear-cell adenocarcinoma of the ovary: a possible alternative ovarian clear-cell carcinogenic pathway	Yamamoto Sohei, Tsuda Hitoshi, Takano Masashi, Hase Kazuo, Tamai Seiichi, Matsubara Osamu.	外科1
Annals of Surgery 247(5): p.811-818, 2008.05	Histological Grading of Colorectal Cancer A Simple and Objective Method	Ueno Hideki, Mochizuki Hidetaka, Hashiguchi Yojiro, Ishiguro Megumi, Kajiwara Yoshiki, Sato Taichi, Shimazaki Hideyuki, Hase Kazuo, Ian C. Talbot.	外科1
BMC Cancer 8(1): p.384-384, 2008.12	Expression of centromere protein F (CENP-F) associated with higher FDG uptake on PET/CT, predicts high-risk patients with primary breast cancer.	Ueda Shigeto, Kondoh Nobuo, Tsuda Hitoshi, Yamamoto Sohei, Asakawa Hideki, Fukatsu Kazuhiko, Kobayashi Takayuki, Yamamoto Junji, Tamura Katsumi, Ishida Jiro, Abe Yoshiyuki, Yamamoto Mikio, Mochizuki Hidetaka.	外科1
日本消化器外科学会雑誌 41(9): p.1661-1668, 2008.09	胃粘膜下腫瘍に対する新しい術式 腹腔鏡・内視鏡共同胃局所切除	比企直樹, 福永哲, 三木明, 徳永正則, 大山繁和, 瀬戸泰之, 大矢雅敏, 山本順司, 齋浦明夫, 山口俊晴.	外科1
Liver Int. 29(1): p.55-62, 2009.01	he knockdown of endogenous replication factor C4 decreases the growth and enhances the chemosensitivity of hepatocellular carcinoma cells.	Masaaki Arai, Nobuo Kondoh, Nobuo Imazeki, Akiyuki Hada, Kazuo Hatsuse, Osamu Matsubara, Mikio Yamamoto.	外科1
日本小児外科学会雑誌 45(1): p.84-89, 2009.02	Cotton Leung 型胆管ステントを用いたEUSガイド下経胃膵嚢胞内ろう術の1例.	佐竹亮介, 谷水長丸, 篠塚望, 村岡いづみ, 森村敏哉, 松頭成, 高橋浩司, 米川浩伸, 大野康治, 里見昭.	外科1
日本重症心身障害学会誌 34(1): p.47-50, 2009.01	重症心身障害者(児)に対する外科的医療の特性.	高橋茂樹, 酒井正人, 里見昭, 米川浩伸, 谷水長丸, 後藤晴美, 布袋屋恵, 鈴木郁子, 丸木和子.	外科1
Mod Pathology 22(3): p.410-415, 2009.03	Tumor deposits are encountered in advanced colorectal cancer and other adenocarcinomas: an expanded classification with implications for colorectal cancer staging system including a unifying concept of in-transit metastases.	Puppa G, Ueno Hideki, Kayahara M, Capelli P, Canzonieri V, Colombari R, Maisonneuve P, Pelosi G.	外科1
Progeress of Digestive Endoscopy 73(2): p.160-161, 2008.12	シングルバルーン小腸内視鏡で診断処置したMeckel憩室出血の1例.	丸田純史, 小林大晋, 高城健, 樋口祥子, 佐藤知己, 佐藤伸吾, 八月朔日秀明, 高本俊介, 中村光康, 穂苅量太, 川口淳, 永尾重昭, 辻本広紀, 上野秀樹, 望月英隆, 三浦総一郎.	外科1

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Histopathology 52(6): p.767-768, 2008.05	Pericolonic tumour deposits in colorectal cancer patients: the challenge is on-going.	Puppa G, Colombari R, Pelosi G, Ueno Hideki.	外科1
Digestive Surgery 26(2): p.100-109, 2009.02	The role of translocation of pathogen-associated molecular patterns in sepsis.	Hironori Tsujimoto, Satoshi Ono, Hidetaka Mochizuki.	外科1
Int.Journal of Cancer 122: p.2535-2541, 2008.08	Gastric cancer cells exploit CD4+ cell-derived CCL5 for their growth and prevention of CD8+ cell-involved tumor elimination.	Sugasawa Hidekazu, Ichikura Takashi, Kinoshita Manabu, Ono Satoshi, Majima Takashi, Tsujimoto Hironori, Chochi Kentaro, Hiroi Sadayuki, Takayama Eiji, Saitoh Daizoh, Seki Shuhji, Mochizuki Hidetaka.	外科1
Journal of Gastroenterology and Hepatology 24: p.262-269, 2008.06	Loss of hepatic B cells following lipopolysaccharide injection and polymicrobial sepsis.	Matsumoto Atsushi, Tsujimoto Hironori, Ono Satoshi, Kinoshita Manabu, Habu Yoshiko, Kawabata Toshinobu, Shinomiya Nariyoshi, Seki Shuhji.	外科1
Clinical Cancer Research 14(10): p.2909-2917, 2008.05	Helicobacter pylori Augments Growth of Gastric Cancers via the Lipopolysaccharide-Toll-like Receptor 4 Pathway whereas Its Lipopolysaccharide Attenuates Antitumor Activities of Human Mononuclear Cells.	Chochi Kentaro, Ichikura Takashi, Kinoshita Manabu, Majima Takashi, Shinomiya Nariyoshi, Tsujimoto Hironori, Kawabata Toshinobu, Sugasawa Hidekazu, Ono Satoshi, Mochizuki Hidetaka, Seki Shuhji.	外科1
The Journal of TRAUMA 65(2): p.360-366, 2008.08	Reversal of Parenteral Nutrition-induced Gut Mucosal Immunity Impairment With Small Amounts of a Complex Enteral Diet.	Ikezawa Fumie, Fukatsu Kazuhiko, Moriya Tomoyuki, Ueno Chikara, Maeshima Yoshinori, Okamoto Kouichi, Hara Etsuko, Saitoh Daizoh.	外科1
Digestive Surgery 26(2): p.249-255, 2009.02	Timing of Relapse and Outcome after Curative Resection for Colorectal Cancer: A Japanese Multicenter Study	Kobayashi Hiroto, Hidetaka Mochizuki, Morita Takayuki, Kotake Kenjiro, Teramoto Tatsuo, Kameoka Shingo, Saito Yukio, Takahashi Keiichi, Hase Kazuo, Ohya Masatoshi, Maeda Koutarou, Hirai Takashi, Kameyama Masao, Shirouzu Kazuo, Sugihara Kenichi.	外科1
Journal of Surgical Research 149(1): p.31-8, 2008.09	Detrimental effects of early nutrition administration after severe gut ischemia-reperfusion.	Fukatsu Kazuhiko, Ueno Chikara, Maeshima Yoshinori, Mochizuki Hidetaka, Saitoh Daizoh.	外科1
BMC Cancer 8(1): p.165-165, 2008.06	Utility of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography fusion imaging (18F-FDG PET/CT) in combination with ultrasonography for axillary staging in primary breast cancer	Ueda Shigeto, Tsuda Hitoshi, Asakawa Hideki, Omata Jiro, Fukatsu Kazuhiko, Kondoh Nobuo, Kondo T., Tamura Katsumi, Ishida Jiro, Abe Yoshiyuki, Mochizuki Hidetaka.	外科1
Japanese Journal of Clinical Oncology 38(4): p.250-258, 2008.04	Clinicopathological and prognostic relevance of uptake level revealed by 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography fusion imaging (18F-FDG PET/CT) in primary breast cancer.	Ueda Shigeto, Tsuda Hitoshi, Sato Kazuhiko, Asakawa Hideki, Shigekawa Takashi, Fukatsu Kazuhiko, Kondoh Nobuo, Yamamoto Mikio, Tamura Katsumi, Ishida Jiro, Abe Yoshiyuki, Mochizuki Hidetaka.	外科1
Clinical Nutrition 27(2): p.269-75, 2008.04	Fish oil infusion reverses 5-fluorouracil-induced impairments in mucosal immunity in mice.	Fukatsu Kazuhiko, Nagayoshi Hidetoshi, Maeshima Yoshinori, Ueno Chikara, Saitoh Daizoh, Mochizuki Hidetaka.	外科1

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Natl Def Med Coll: p.23-29, 2009.03	Solitary jejunal metastasis from esophageal squamous cell carcinoma, a case report	Takuya Horio, Satoshi Aiko, Yoshitaka Kadoma, Norishige Kanai, Takamitsu, Ishizuka, Hideyuki Shimazaki, Shinsuke Aida, Kazuo Hase, Tadaaki Maehara.	外科2
J. of Controlled Release 133: p.185-190, 2009.02	Cytokine-immobilized microparticle-coated plates for culturing hematopoietic progenitor cells.	Satoko Kishimoto, Shingo Nakamura, Sinichirou Nakamura, HidemiHattori, Fumie Oonuma, YasuhiroKanatani, Yoshihiro Tanaka, Yasuji Harada, Masahiro Tagawa, Tadaaki Maehara, Masayuki Ishihara.	外科2
Endoscopy 41: p.25-28, 2009.02	Experimental evaluation of photocrosslinkable chitosan hydrogel as injection solution for endoscopic resection	Takamitsu Ishiduka, Masayuki Ishihara, Satoshi Aiko, Yashiro Nogami, Shingo Nakamura, YasuhiroKanatani, Satoko Kishimoto, HidemiHattori, Takuya Horio, Yoshihiro Tanaka, Tadaaki Maehara.	外科2
Photochemistry and Photobiology 85: p.714-718, 2009.01	Amelioration of airway stenosis in rabbit models by photodynamic therapy with talaporfin sodium (NPe6).	Yoshinori Nakagishi, Noriko Morimoto, Yuichi Ozeki, Tadaaki Maehara, Makoto Kikuchi, Yuji Morimoto.	外科2
防衛衛生 56(1): p.17-24, 2009.01	FGF-2含有フラグミンプロタミンマイクロキャリア (F/P MPs)による虚血改善効果の検討.	片桐彰男, 橋谷華世, 中村伸吾, 服部秀美, 岸本聡子, 前原正明, 石原雅之.	外科2
Shock 30(3): p.250-253, 2008.09	The peritoneum as novel oxygenation organ: revitalization of interaperitoneal oxygenation.	Noriyuki Matsutani, Bonpei Takase, Yashiro Nogami, Yuichi Ozeki, Masayuki Ishihara, Tadaaki Maehara.	外科2
Neurologia Medico Chirurgica (Tokyo) 48(1): p.37-9, 2008.08	Atrial myxoma occurring 15 years after subtotal resection of cerebellar hemangioblastoma.	Yanagawa Youichi, Shimazaki H., Shima Katsuji, Isoda S., Maehara Tadaaki, Okada Yoshiaki.	外科2
Annals of Surgery 248(2): p.310-319, 2008.08	Liposome-encapsulated hemoglobin transfusion rescues rats undergoing progressive hemodilution from lethal organ hypoxia without scavenging nitric oxide.	Yashiro Nogami, Manabu Kinoshita, Bonpei Takase, Yoshitaka Ogata, Daizoh Saitoh, Makoto Kikuchi, Masayuki Ishihara, Tadaaki Maehara.	外科2
日本臨床外科学会雑誌 69(7): p.1804-1808, 2008.07	術後20カ月に再発をきたした小腸間膜デスマイドの1例	堀尾卓矢, 愛甲聡, 坂野孝史, 熊野勲, 金井宣茂, 前原正明.	外科2
Molecular Reproduction and Development 75(6): p.1085-1093, 2008.06	Cre-loxP system as a versatile tool for conferring increased levels of tissue-specific gene expression from a weak promoter.	Shingo Nakamura, Satoshi Watanabe, Masato Ohtsuka, Tadaaki Maehara, Masayuki Ishihara, Takashi Yokomine, Masahiro Sato.	外科2
Journal of biomedical materials research. Part A 85(3): p.619-627, 2008.06	Effect of controlled release of fibroblast growth factor-2 from chitosan/fucoidan micro complex-hydrogel on in vitro and in vivo vascularization.	Shingo Nakamura, Masaski Nanbu, Takamitsu Ishiduka, HidemiHattori, Yasuhiro Kanatani, Bonpei Takase, Satoko Kishimoto, Yoshiko Amano, Hiroshi Aoki, Tomoharu Kiyosawa, Masayuki Ishihara, Tadaaki Maehara.	外科2
Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 16: p.23-24, 2008.06	Pyogenic Vertebral Osteomyelitis after Surgery for rupture of the Aortic Arch	Yashiro Nogami, Susumu Isoda, Masafumi Shimizu, Tamizo Kimura, Kimihiro Suzuki, Tadaaki Maehara.	外科2

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Radiol 27(2): p.107-110, 2009.03	Pulmonary and thymic lymphoid hyperplasia in primary Sjogren's syndrome.	Kobayashi Hideo, Ozeki Yuichi, Aida Shinsuke.	外科2
日呼吸会誌 46(12): p.1055-1058, 2008.12	8年間の経過でair trappingの進行を認めたHTLV-1関連気道病変の一例	三木田 馨, 小林英夫, 叶宗一郎, 尾関雄一, 元吉和夫.	外科2
日呼吸会誌 46(12): p.1045-1049, 2008.12	生活環境変化に応じ病勢が変動した鳥関連慢性過敏性肺炎の一例	原 悠, 小林英夫, 恐田尚幸, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一.	外科2
American Journal of Surgical Pathology 32(10): p.1489-1494, 2008.10	Solitary peripheral ciliated glandular papillomas of the lung, a report of 3 cases	Aida Shinsuke, Ohara Ichiyo, Shimazaki Hideyuki, Dai Yuichi, Ogata Sho, Ozeki Yuichi, Tamai Seiichi.	外科2
Shock 30(3): p.250-253, 2008.09	The peritoneum as novel oxygenation organ: revitalization of interaperitoneal oxygenation	Noriyuki Matsutani, Bonpei Takase, Yashiro Nogami, Yuichi Ozeki, Masayuki Ishihara, Tadaaki Maehara.	外科2
気管支学 30(5): p.257-260, 2008.09	予後良好な気管支平滑筋肉腫の1例	三木田 馨, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一, 相田真介.	外科2
Ann Nucl Med 22: p.521-524, 2008.08	18F-FDG-PET/CT as an indicator for resection of pulmonary epithelioid hemangioendothelioma.	Sadahiro Watanabe, Fuzuki Yano, Tamotsu Kita, Shigeyoshi Soga, Hiroshi Shinmoto, Shigeru Kosuda, Yuichi Ozeki, Shinsuke Aida, Ikuko Sakata.	外科2
気管支学 30(2): p.80-85, 2008.04	陰影が入院後改善し,外泊により悪化したMycobacterium avium症	恐田尚幸, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一, 相田真介.	外科2
日呼吸会誌 46(3): p.202-205, 2008.04	肺動脈と直接連結した特発性気管支動脈瘤	下川路伊亮, 小林英夫, 河野修一, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一.	外科2
Diseases of the Esophagus 21(7): p.619-627, 2008.10	Enteral immuno-enhanced diets with arginine are safe and beneficial for patients early after esophageal cancer surgery.	Satoshi Aiko, Yutaka Yoshizumi, Takamitsu Ishizuka, Takuya Horio, Takashi Sakano, Isao Kumano, Norishige Kanai, Tadaaki Maehara.	外科2
Esophagus 5(3): p.141-148, 2008.09	Surgical attempts to avoid anastomotic leaks and reduce reflux esophagitis following esophagectomy for cancer.	Satoshi Aiko, Yutaka Yoshizumi, Hitoshi Ogawa, Takamitsu Ishiduka, Takuya Horio, Norishige Kanai, Takefumi Nakayama.	外科2
Annals of Plastic Surgery 62(3): p.317-321, 2009.03	Accelerated wound healing in healing-impaired db/db mice by autologous adipose tissue-derived stromal cells combined with atelocollagen matrix.	Masaki Nanbu, Satoko Kishimoto, Shingo Nakamura, Hiroshi Mizuno, Satoshi Yanagibayashi, Naoto Yamamoto, Ryuichi Azuma, Sinichirou Nakamura, Tomoharu Kiyosawa, Masayuki Ishihara, Yasuhiro Kanatani.	外科2
J. of Biochemistry 145(3): p.275-278, 2009.03	Human Stem Cell Factor (SCF) is a Heparin-Binding Cytokine.	Satoko Kishimoto, Shingo Nakamura, Hidemi Hattori, Sinichirou Nakamura, Fumie Oonuma, Yasuhiro Kanatani, Yoshihiro Tanaka, Yasutaka Mori, Yasuji Harada, Masahiro Tagawa, Masayuki Ishihara.	外科2

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Biomed Mater Res B 87(1): p.229-236, 2008.10	Expansion and characterization of adipose tissue-derived stromal cells cultured with low serum medium.	Hattori Hidemi, Nogami Yashiro, Tanaka Tomohiro, Amano Yoshiko, Fukuda Koichi, Kishimoto Satoko, Kanatani Yasuhiro, Nakamura Shingo, Takase Bonpei, Ishihara Masayuki.	外科2
Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 16: p.23-24, 2008.06	Pyogenic Vertebral Osteomyelitis after Surgery for rupture of the Aortic Arch	Yashiro Nogami, Susumu Isoda, Masafumi Shimizu, Tamizo Kimura, Kimihiro Suzuki, Tadaaki Maehara.	外科2

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科治療学 24(3): p.371-374, 2009.03	頻回の嘔吐により食道破裂をきたした摂食障害の1例	平野仁一, 重村淳, 吉野相英, 野村総一郎.	精神科
こころと文化 8(1): p.62-68, 2009.02	ワシントンDC地区における日本人メンタルヘルス専門家ネットワークの構築	重村淳, 岩瀬功子, クィーン岡崎響子, 榎木利再, 野村総一郎.	精神科
Psychiatry and Clinical Neurosciences 62(6): p.713-720, 2008.12	Relationship between post-traumatic stress disorder-like behavior and reduction of hippocampal 5-bromo-2'-deoxyuridine-positive cells after inescapable shock in rats.	Kikuchi Akihito, Shimizu Kunio, Nibuya Masashi, Hiramoto Takeshi, Kanda Yasunari, Watanabe Yasuhiro, Takahashi Yoshitomo, Nomura Soichiro.	精神科
World Cultural Psychiatry Research Review 3(4): p.180-186, 2008.10	Perception of safety among the Japanese residents in the Washington, D.C. area.	Shigemura Jun, Fullerton, Carol S., Ursano, Robert J., Querci-Daniore, Raffaella, Wang, Leming, Yoshino Aihide, Nomura Soichiro.	精神科
脳と精神の医学 19(3): p.181-184, 2008.09	ペースメーカー装着患者の修正型電気けいれん療法	平野仁一, 宮崎誠樹, 吉野相英, 野村総一郎.	精神科
Psychopharmacology 198(2): p.279-286, 2008.06	Effects of selective 5-HT(1A) agonist tandospirone on the rate and rhythmicity of binocular rivalry.	Nagamine Masanori, Yoshino Aihide, Miyazaki Masaki, Takahashi Yoshitomo, Nomura Soichiro.	精神科
こころと文化 8(1): p.69-76, 2009.02	海外在留邦人100万人時代のメンタルヘルス対策:第1報 米国北東部地域における邦人メンタルヘルス専門家の連携.	鈴木満, 仲本光一, 吾妻壮, 森真佐子, バーンズ静子, 坂上恵子, 重村淳, 鈴木貴子.	精神科
子どもの虐待とネグレクト 10(2): P230-241, 2008.08	虐待する母の精神療法 精神科治療に「子供の虐待」が浮上するとき	佐野信也, 石井元康, 中板育美, 菊地秀明	精神科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児血液学会雑誌 23(1): p.43-46, 2009.02	骨髄非破壊的前処置にて血縁者間臍帯血移植を施行し、生着が得られた重症再生不良性貧血の1例.	本間健一, 辻陽一郎, 今井耕輔, 子川和宏, 野々山恵章.	小児科
Pediatric Infectious Disease Journal 27(12): p.1120-1121, 2008.12	Molecular detection of anaerobic streptococcus from the cerebrospinal fluid of a patient with a brain abscess.	Matsumoto Hiroshi, Kamae Chikako, Kanai Takashi, Asano Takako, Wakamatsu Hajime, Nonoyama Shigeaki.	小児科
The American Journal of Human Genetics 83(6): p.744-751, 2008.12	Mutations in glucose transporter 9 gene SLC2A9 cause renal hypouricemia.	Matsuo H, Chiba T, Nagamori S, Nakayama A, Domoto H, Phetdee K, Wiriyasermkul P, Kikuchi Y, Oda T, Nishiyama J, Nakanura T, Morimoto Y, Kamakura K, Sakurai Y, Nonoyama Shigeaki, Kanai Y, Shinomiya N.	小児科
Pediatr Infect Dis J 27(11): p.1035-1037, 2008.11	Quantitative PCR assay used to monitor serum Trichosporon asahi DNA concentration in disseminated trichosporonosis.	Tsuji Yoichiro, Tokimatsu I, Sugita T, Nozaki Masatoshi, Kobayashi D, Imai Kohsuke, Kogawa Kazuhiro, Nonoyama Shigeaki.	小児科
日本小児科学会雑誌 112(6): p.1005-1009, 2008.06	視神経管内異物により脳髄膜炎を繰り返した1例	鈴木繁, 若松太, 滝沢真理, 辻田由喜, 石渡隆寛, 小林治, 野々山恵章.	小児科
BMC Medical Genetics 20(9): p.42-42, 2008.05	Immunological profile in a family with nephrogenic diabetes insipidus with a novel 11 kb deletion in AVPR2 and ARHGAP4 genes.	Fujimoto M, Imai K, Hirata K, Kashiwagi R, Morinishi Y, Kitazawa K, Sasaki S, Arinami T, Nonoyama Shigeaki, Noguchi E..	小児科
Journal of infection and chemotherapy 14(3): p.244-249, 2008.07	Usefulness of procalcitonin serum level for the discrimination of severe sepsis from sepsis: a multicenter prospective study.	Shigeatsu Endo, Naoki Aikawa, Seitaro Fujishima, Isao Sekine, Kazuhiro Kogawa, Yasuhiro Yamamoto, Shigeki Kushimoto, Hidekazu Yukioka, Noboru Kato, Kyoichi Totsuka, Ken kikuchi, Toshiaki Ikeda, Kazumi Ikeda, Hiroyuki Yamada, Kazuaki Harada, Shinji Satomura.	小児科
			小児科
			小児科
			小児科
			小児科
			小児科
			小児科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Artificial Organs 33(1): p.74-77, 2009.01	Photocrosslinkable chitosan hydrogel can prevent bone formation in both rat skull and fibula bone defects.	Yoshifumi Tsuda, Masayuki Ishihara, Masatoshi Amako, Hiroshi Arino, Hidemi Hattori, Yasuhiro Kanatani, Hirofumi Yura, Koichi Nemoto.	整形外科
Bone 44(2): p.295-305, 2009.02	Skeletal unloading induces a full-thickness patellar cartilage defect with increase of urinary collagen II CTX degradation marker in growing rats.	Tomiya Masato, Fujikawa Kyosuke, Shoichi Ichimura, Toshiyuki Kikuchi, Yoshihara Yasuo, Nemoto Koichi.	整形外科
Molecular Therapy 17(1): p.42-50, 2009.01	Nonviral Retrograde Gene Transfer of Human Hepatocyte Growth Factor Improves Neuropathic Pain-related Phenomena in Rats.	Yokozaki Tsushihara, Sho Ogata, Koichi Nemoto, Toshitaka Okabayashi, Kuniaki Nakanishi, Naoki Kato, Ryuichi Morishita, Yasufumi Kaneda, Maki Uenoyama, Shinya Suzuki, Masatoshi Amako, Toshiaki Kawai, Hiroshi Arino.	整形外科
日本手の外科学会雑誌 25(3): p.205-209, 2008.12	電流知覚閾値(CPT)を用いた手根管症候群と肘部管症候群の治療成績の評価	津田悦史, 有野浩司, 尼子雅敏, 岡林俊貴, 根本孝一.	整形外科
日本手の外科学会雑誌 25(3): p.210-213, 2008.12	肘部管症候群の病態に即した手術法の術後成績	尼子雅敏, 根本孝一, 有野浩司, 土原豊一, 渡邊樹一.	整形外科
Osteoarthritis and Cartilage 16(11): p.1343-1355, 2008.11	Superficial zone chondrocytes in normal and osteoarthritic human articular cartilages synthesize novel truncated forms of inter-alpha trypsin inhibitor heavy chains which are attached to a chondroitin sulfate proteoglycan other than bikunin.	Yoshihara Yasuo, A. Plaas, B. Osborn, A. Margulis, F. Nelson, M. Stewart, M. S. Rugg, C. M. Milner, A. J. Day, Nemoto Koichi, J. D. Sandy.	整形外科
The Journal of Bone & Joint Surgery (Br) 90-B(8): p.1097-1100, 2008.08	Sural nerve grafting for long defects of the femoral nerve after resection of a retroperitoneal tumour.	T.Tsuchihara, Koichi Nemoto, H.Arino, M.Amako, H.Murakami, Y.Yoshizumi.	整形外科
肩関節 32(2): p.305-308, 2008.06	鏡視下Bankart法術後の肩関節内外旋筋力の経時的変化	尼子雅敏, 今井智仁, 岡村健司, 古賀龍二, 田中祥貴, 渡邊樹一, 有野浩司, 根本孝一.	整形外科
日本脊椎脊髓病学会雑誌 19(3): p.652-655, 2008.11	Spinal Shortening Osteotomy for the Paraplegia after Osteoporotic Vertebral Fracture.	Shoichi Ichimura, Masaichi Hasegawa, Kazuhiko Satomi, Takashi Asazuma.	整形外科
Scandinavian journal of plastic and reconstructive surgery and hand surgery 42(6): p.281-285, 2008.12	Implantation of Schwann cells in rat tendon autografts as a model for peripheral nerve repair: Long term effects on functional recovery.	Hiroshi Arino, Jerker Brandt, Lars B. Dahlin.	整形外科
Journal of Shoulder and Elbow Surgery 17(5): p.738-743, 2008.09	Recovery of shoulder rotational muscle strength after a combined Bankart and modified Bristow procedure.	Masatoshi Amako, Tomohito Imai, Kenji Okamura.	整形外科
			整形外科
			整形外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurosurg Emerg 13(2): p.213-217, 2008.12	抗凝固療法中にfluid-blood levelを呈した後頭蓋窩急性硬膜下血腫の一例	豊岡輝繁, 苗代弘, 都築伸介, 前田大介, 魚住洋一, 戸村哲, 大角篤司, 長田秀夫, 鈴木隆元, 島克司.	脳神経外科
Neuro-Oncology 18(2): p.98-102, 2008.12	膠芽腫におけるxCTの発現とxCTを標的とした治療の可能性	苗代弘, 豊岡輝繁, 長田秀夫, 島克司, 四ノ宮成祥.	脳神経外科
Acta Neurochirurgica 150(11): p.1203-1206, 2008.11	Piloxyoid astrocytoma of the fourth ventricle in an adult.	Tomoko Omura, Hiroshi Nawashiro, Hideo Osada, Nobusuke Tsuzuki, Katsuji Shima.	脳神経外科
J Stroke Cerebrovascular disease 17(5): p.325-327, 2008.09	from a falx meningioma after internal use of low-dose aspirin	Miyazawa Takahito, Uozumi Yoichi, Toyooka Terushige, Shima Katsuji.	脳神経外科
Neurologia Medico Chirurgica (Tokyo) 48(1): p.37-9, 2008.08	Atrial myxoma occurring 15 years after subtotal resection of cerebellar hemangioblastoma.	Yanagawa Youichi, Shimazaki H., Shima Katsuji, Isoda S., Maehara Tadaaki, Okada Yoshiaki.	脳神経外科
Neurosurgical Emergency 13(1): p.57-62, 2008.08	卒中患者の減圧開頭症例の検討.	小林弘明, 都築伸介, 前田大介, 大村朋子, 豊岡輝繁, 鈴木隆元, 大貫明, 宮澤隆仁, 苗代弘, 島克司.	脳神経外科
Neuro-Oncology 18(1): p.22-24, 2008.04	無月経、subclinical acromegalyを呈した下垂体 silent subtype-3 adenomaと思われる1例.	苗代弘, 盛田幸司, 藤井博子, 内田香介, 安谷慶徳章, 濱田耕司, 長田秀夫, 島克司, 元吉和夫, 田中祐司.	脳神経外科
Proceedings of SPIE 7187: p.71870U-1-71870U-6, 2009.02	In vivo transcranial measurement of light scattering in rat brains during hypoxia.	Kawauchi Satoko, Sato Shunichi, Uozumi Yoichi, Nawashiro Hiroshi, Ishihara Miya, Kikuchi Makoto.	脳神経外科
Headache 48 (9): p.1383-1384, 2008.10	Idiopathic Intracranial Hypertension Associated With Sulphasalazine Treatment.	Hiroshi Nawashiro.	脳神経外科
Applied Optics 47(22): p.4164-4176, 2008.08	Simultaneous measurement of changes in light absorption due to the reduction of cytochrome c oxidase and light scattering in rat brains during loss of tissue viability.	Kawauchi Satoko, Sato Shunichi, Ooigawa Hidetoshi, Nawashiro Hiroshi, Ishihara Miya, Kikuchi Makoto.	脳神経外科
泌尿器科紀要 55(3): p.123-127, 2009.03	術後に高度の低血糖を呈した副腎褐色細胞腫の1例.	梅田俊, 伊藤敬一, 辻田裕二郎, 三上洋, 都築伸介, 宮崎哲, 早川正道, 浅野友彦.	脳神経外科
Neurological Surgery 36(10): p.907-910, 2008.07	Case of traumatic dural arteriovenous fistula presenting as an acute subdural hematoma and an intracerebral hematoma. A case report.	竹内誠, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 大谷直樹, 吉野義一, 八ツ繁寛.	脳神経外科
脳と神経 60(7): p.870-873, 2008.07	Case of vertebral artery occlusion caused by transverse process fracture of C7.	竹内誠, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 大谷直樹, 吉野義一, 八ツ繁寛.	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl 104: p.337-340, 2008.07	Akiko Kitahashi, Yujirou Obikane, Chikashi Aoyagi. Low incidence of Cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage: a compalison between surgical repairs and endovascular coil occlusions.	Yoshikazu Yoshino, Yoshio Takasato, Hiroyuki Masaoka, Takanori Hayakawa, Naoki Otani, Hiroshi Yatsushige, Takashi Sugawara,	脳神経外科
Swiss Archives of Neurology and Psychiatry 159(4): p.159-160, 2008.07	Paramedian transcondylar approach in microvascular decompression for hemifacial spasm: Comparison of surgical results and intraoperative findings with inferolateral suboccipital approach.	Naoki Otani, Fujioka M, Bjeljac M, Oracioglu B, Khan N, Imhof HG, Yonekawa Y.	脳神経外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cerebrovascular Disease 26(6): p.612-617, 2008.07	Surgical outcome following decompressive craniectomy for poor-grade aneurysmal subarachnoid hemorrhage in patients with associated massive intracerebral or sylvian hematomas.	Naoki Otani, Yoshio Takasato, Hiroyuki Masaoka, Takanori Hayakawa, Yoshikazu Yoshino, Hiroshi Yatsushige, Kyoko Sumiyoshi, Hiroki Miyawaki, Chikashi Aoyagi, Go Suzuki.	脳神経外科
Acta Neurochir Suppl. 103: p.29-36, 2008.07	Thalamic cavernous angioma: paraculminar supracerebellar infratentorial transtentorial approach for the safe and complete surgical removal.	Otani N, Fujioka M, Oracioglu B, Muroi C, Khan N, Roth P, Yonekawa Y.	脳神経外科
脳神経外科 36(6): p.505-511, 2008.07	Transcatheter arterial embolization in the treatment of facial injury.	竹内誠, 本間正人, 加藤宏, 井上潤一, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 大谷直樹, 吉野義一, 八ツ繁寛.	脳神経外科
脳と神経 60(5): p.555-558, 2008.07	軽微な頭部外傷で発症した動眼神経単独障害の1例	竹内誠, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 大谷直樹, 吉野義一, 八ツ繁寛.	脳神経外科
脳卒中の外科 36: p.106-110, 2008.07	広範囲脳梗塞に対する減圧開頭術の有用性と治療成績	大谷直樹, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 吉野義一, 八ツ繁寛, 住吉京子, 宮脇博基, 竹内誠, 青柳盟史, 鈴木剛.	脳神経外科
脳神経外科 36(3): p.239-243, 2008.07	硬膜浸潤を伴った頭蓋骨好酸球性肉芽腫の1手術例.	竹内誠, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 大谷直樹, 吉野義一, 八ツ繁寛.	脳神経外科
脳神経外科 36(3): p.245-249, 2008.07	慢性被膜化脳内血腫を伴った静脈性血管腫の1例.	竹内誠, 高里良男, 正岡博幸, 早川隆宣, 大谷直樹, 吉野義一, 八ツ繁寛.	脳神経外科
Neurosurg Emerg 13(2): p.143-150, 2008.12	脳血管障害におけるドクターヘリの役割	江崎孝徳, 長田秀夫, 中尾保秋, 山本拓史, 大山一孝, 丹下祐一, 森健太郎.	脳神経外科
脳卒中 30(5): p.674-681, 2008.09	塞栓性大脳半球梗塞に対する早期外減圧術の有効性	長田秀夫, 森健太郎, 山本拓史, 中尾保秋, 大山一孝, 江崎孝徳, 渡辺瑞也.	脳神経外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚科の臨床 51(3): p.438-439, 2009.03	検体重量290gであった特発性陰嚢石灰沈着症の1例	阿部浩之, 高井彩也華, 崎山真幸, 武藤潤, 森澤有希, 藤本典宏, 福本隆, 小野公司, 岩崎純也, 小林孝志, 多島新吾.	皮膚科
Acta Dermato-Venereologica 88(2): p.166-167, 2008.12	Poroma with Sebaceous Differentiation of the Eyelid:a rare site of occurrence.	Iwasaki Junya, Yoshida Yuichi, Yamamoto Osamu, Tajima Shingo.	皮膚科
Journal of Cutaneous Pathology 35(1): p.21-26, 2008.12	Proliferation of HSP47-positive skin fibroblasts in dermatofibroma.	Kuroda Kei, Tajima Shingo.	皮膚科
SKIN SURGERY 17 (3): p.115-117, 2008.12	顔面皮膚悪性腫瘍切除後の局所皮弁再建で入院期間を短縮できた超高齢患者3例	阿部浩之, 青木繁, 高井彩也華, 岩崎純也, 小野公司, 藤本典宏, 小林孝志, 多島新吾.	皮膚科
臨床皮膚科 62(12): p.933-935, 2008.11	尿管膿瘍の1例	岩崎純也, 武藤潤, 青木繁, 藤本典宏, 小林孝志, 多島新吾, 木村文宏, 番場圭介.	皮膚科
皮膚科の臨床 50(8): p.1021-1024, 2008.08	病変の一部が自然消退傾向を示したBowen病	岩崎純也, 足立孝司, 安岐敏行, 百田雄一, 山元修, 多島新吾.	皮膚科
Acta Derm Venereol. 88(5): p.517-519, 2008.05	Sweet syndrome subsequent to relapsing polycondritis and myelodysplastic syndrome in a Japanese patient.	Kawakami T, Kawase A., Takeuchi S, Norihiro Fujimoto, Shingo Tajima, Yoshioka S, Mizoguchi M, Soma Y.	皮膚科
日本頭蓋顎顔面外科学会誌: p.228-232, 2008.09	幼児の顔面に生じた巨大石灰化上皮腫の1例	大槻祐可子, 青木繁, 木田達平, 百澤明, 三鍋俊春, 土田幸英, 佐藤良博, 伊崎誠一.	皮膚科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本泌尿器科学会雑誌 99(4): p.584-592, 2008.05	一施設における腎癌副腎転移の臨床的検討	伊藤敬一, 水口靖規, 佐藤全伯, 黒田健司, 堀口明男, 木村文宏, 住友誠, 浅野友彦, 早川正道.	泌尿器科
泌尿器科紀要 55: p.123-127, 2009.03	術後に高度の低血糖を呈した副腎褐色細胞腫の1例	梅田俊, 伊藤敬一, 辻田裕二郎, 三上洋, 都築伸介, 宮嶋哲, 早川正道, 浅野友彦.	泌尿器科
今日の移植 21(6): p.640-642, 2008.11	腎移植における高用量ミノプリンの有用性	浅野友彦, 中川健, 星長清隆, 相川厚, 矢野清一郎, 吉田一成, 大城吉則, 杉山健, 村井勝, 長谷川昭.	泌尿器科
Audio-Visual Journal of JUA 14(4): p.14-21-14-21, 2008.10	高度の肥満を伴う左副腎腫瘍の症例に対して腹腔壁吊り上げ法と気腹法を併用した1例	伊藤敬一, 浅野友彦, 小坂威雄, 三上洋, 梅田俊, 住友誠, 早川正道, 藤井博子, 田中祐司.	泌尿器科
J Urol 180(3): p.1137-40, 2008.09	Overexpression of Fatty Acid Synthase Is an Indicator of Tumor Aggressiveness and Poor Prognosis of Renal Cell Carcinoma.	堀口明男, 浅野友彦, 浅野貴子, 伊藤敬一, 住友誠, 早川正道.	泌尿器科
J Urol 180(2): p.729-36, 2008.08	Pharmacological Inhibitor of Fatty Acid Synthase Suppresses Growth and Invasiveness of Renal Cancer Cells.	堀口明男, 浅野友彦, 浅野貴子, 伊藤敬一, 住友誠, 早川正道.	泌尿器科
Prostate 68: p.1057-63, 2008.06	Prediction of lymphatic invasion by peritumoral lymphatic vessel density in prostate biopsy cores.	黒田健司, 堀口明男, 浅野貴子, 浅野友彦, 早川正道.	泌尿器科
Urology 71: p.928-932, 2008.05	Intratumoral Lymphatics and Lymphatic Invasion Are Associated with Tumor Aggressiveness and Poor Prognosis in Renal Cell Carcinoma	Horiguchi A, Ito Keiichi, Sumitomo Makoto, Kimura Fumihiko, Asano Tomohiko, Hayakawa Masamichi.	泌尿器科
J Urol 180(3): p.1137-40, 2008.09	Overexpression of Fatty Acid Synthase Is an Indicator of Tumor Aggressiveness and Poor Prognosis of Renal Cell Carcinoma.	Horiguchi Akio, Asano Tomohiko, Asano Takako, Ito Keiichi, Sumitomo Makoto, Hayakawa Masamichi.	泌尿器科
J Urol 180(2): p.729-36, 2008.08	Pharmacological Inhibitor of Fatty Acid Synthase Suppresses Growth and Invasiveness of Renal Cancer Cells.	Horiguchi Akio, Asano Tomohiko, Asano Takako, Ito Keiichi, Sumitomo Makoto, Hayakawa Masamichi.	泌尿器科
Prostate 68(9): p.975-84, 2008.06	Inactivation of the NF2 tumor suppressor protein merlin in DU145 prostate cancer cells.	Horiguchi A, Zheng R, Shen R, Nanus DM.	泌尿器科
Prostate 68: p.1057-63, 2008.06	Prediction of lymphatic invasion by peritumoral lymphatic vessel density in prostate biopsy cores.	Kuroda Kenji, Horiguchi Akio, Asano Takako, Asano Tomohiko, Hayakawa Masamichi.	泌尿器科
International J of Oncology: p.inpress-inpress, 2009.02	Adrenal Leiomyosarcoma treated with multiple local therapies.	Shinsuke Hamada, Keiichi Ito, Musashi Tobe, Hideo Otsuki, Yukihiko Hama, Yoshiaki Sugiura, Tatsumi Kaji, Tomohiko Asano, Masamichi Hayakawa.	泌尿器科
UROLOGY 72(2): p.354-358, 2008.05	Risk factors for ipsilateral adrenal involvement in renal cell carcinoma.	Keiichi Ito, Hayakazu Nakazawa, Ken Marumo, Seiichiro Ozono, Tatsuo Igarashi, Nobuo Shinohara, Momokuni Fukuda, Tomoyasu Tsushima, Seiji Naito, Masamichi Hayakawa.	泌尿器科
Urology 72(6): p.1335-1340, 2008.12	Toyoaki Uchida. Efficacy of short-term androgen deprivation with high-intensity focused ultrasound in the treatment of prostate cancer in Japan.	Makoto Sumitomo, Mutsuo Hayashi, Tetsuya Watanabe, Masaya Tsugawa, Hideya Noma, Akito Yamaguchi, Kazuhiko Nagakura, Masamichi Hayakawa.	泌尿器科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology 76(5): p.315-321, 2009.03	Clinical significance of UDP-glucuronosyltransferase 1A16 upon toxicities of combination chemotherapy with irinotecan and cisplatin in gynecologic cancers: a prospective multi-institutional study.	Masashi Takano, Masafumi Kato, Tomoyuki Yoshikawa, Naoki Sasaki, Junko Hirata, Kenichi Furuya, Michiko Takahashi, Harushige Yokota, Nao Kino, Koji Horie, Tomoko Goto, Keiichi Fujiwara, Kenji Ishii, Yoshihiro Kikuchi, Tsunekazu Kita.	産科婦人科
埼玉県医学会雑誌 43(2): p.460-465, 2009.02	ホルモン産生卵巣腫瘍 - 細胞診の観点から	笹秀典, 渡邊昭夫, 今井加納子, 加藤雅史, 吉川智之, 高野政志, 直井美穂, 相田真介, 古谷健一.	産科婦人科
産婦人科の実際 58(2): p.225-230, 2009.02	分娩歴・分娩週数別における分娩誘発リスクの検討	川上裕一, 松田秀雄, 村上真紀, 古谷健一.	産科婦人科
日本周産期・新生児医学会雑誌 44(4): p.1123-1125, 2008.12	癒着胎盤の取り扱い癒着前置胎盤の管理における子宮動脈塞栓(UAE)の意義	川上裕一, 松田秀雄, 吉永洋輔, 早田英二郎, 古谷健一.	産科婦人科
Fetal Diagn Ther 2008 24(3): p.211-217, 2008.08	Safer Cordocentesis by New 25-Gauge Needles.	Yuichi Kawakami, Hideo Matsuda, Tomoko Shibasaki, Masashi Yoshida, Kenichi Furuya.	産科婦人科
日本臨床細胞学会埼玉県支部会誌 26(7): p.26-29, 2008.07	診断困難であった大腸癌の子宮浸潤例	笹秀典, 今井加納子, 河合淳子, 高野政志, 直井美穂, 相田真介, 古谷健一.	産科婦人科
Journal of Clinical Oncology 26(15): p.312-312, 2008.06	Clinical significance of UDP-glucosyltransferase 1A16 upon toxicities of combination chemotherapy of irinotecan and cisplatin in gynecologic cancers; a preliminary multi-institutional result.	Masashi Takano, Masafumi Kato, Tomoyuki Yoshikawa, Kenichi Furuya, Michiko Takahashi, Harushige Yokota, Nao Kino, Koji Horie, Tomoko Goto, Kenji Ishii, Tsunekazu Kita.	産科婦人科
Oncology Reports 19: p.1259-1264, 2008.05	Survival analysis of ovarian clear cell carcinoma confined to the ovary with or without comprehensive surgical staging.	Masashi Takano, Naoki Sasaki, Tsunekazu Kita, Kazuya Kudou, Kazuyuki Fujii, Tomoyuki Yoshikawa, Masafumi Kato, Junko Hirata, Kenichi Furuya, Hitoshi Tuuda, Yoshihiro Kikuchi.	産科婦人科
産婦人科の実際 57(5): p.789-791, 2008.05	先天性風疹症候群感染症予防のための工夫 - 風疹抗体価低値の妊婦における産後予防接種施行調査	松田秀雄, 上里忠司, 川上裕一, 藤田寿太郎, 古谷健一.	産科婦人科
J.Perinat.Med. 36: p.178-181, 2008.04	Intraplacental choriocarcinoma with fetomaternal hemorrhage: a case study and literature review	Hironori Takahashi, Hideo Matsuda, Yoshifumi Mizumoto, Kenichi Furuya.	産科婦人科
日本婦人科腫瘍学会雑誌 262: p.149-154, 2008.04	表層上皮性卵巣癌に対する初回科学療法としてのDocetaxel/Carboplatin(DC)療法の検討	安田允, 上坊敏子, 古谷健一, 大蔵健義, 吉川裕之, 稲葉憲之, 佐々木寛, 鈴木光明, 小西郁生.	産科婦人科
Modern Pathology 22: p.499-507, 2009.03	Actinin-4 gene amplification in ovarian cancer: a candidate oncogene associated with poor patient prognosis and tumor chemoresistance.	Sohei Yamamoto, Hitoshi Tsuda, Kazufumi Honda, Kaoru Onozato, Masashi Takano, Seiichi Tamai, Issei Imoto, Joji Inazawa, Teshi Yamada, Osamu Matsubara.	産科婦人科
Cancer & chemotherapy 35(11): p.1981-1984, 2008.11	Bowel Perforation Associated with Bevacizumab Therapy in Recurrent Ovarian Cancers without Bowel Obstruction or Bowel Involvement.	Masashi Takano, Yoshihiro Kikuchi, Masafumi Kato, Tomoyuki Yoshikawa, Tsunekazu Kita.	産科婦人科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Res 29(2): p.577-581, 2009.02	Outpatient chemotherapy with S-1 for recurrent head and neck cancer.	Yamashita T, Shinden S, Watabe T, Shiotani A.	耳鼻いんこう科
Neurochemistry international 54: p.513-518, 2009.02	Therapeutic effect of edaravone on inner ear barotrauma in the guinea pig.	Hitoshi Maekawa, Takeshi Matsunobu, Hitoshi Tsuda, Yukihiro Masuda, Tetsuya Tanabe, Shiotani Akihiro.	耳鼻いんこう科
頭頸部外科 18(3): p.221-227, 2009.02	声門上癌・下咽頭癌に対する経口的喉頭・下咽頭部分切除術	富藤 雅之, 齋藤康一郎, 塩谷 彰浩.	耳鼻いんこう科
頭頸部外科 18(3): p.243-250, 2009.02	当科における耳下腺腫瘍の臨床統計	廣田稔治, 松延毅, 栗田 昭宏, 富藤 雅之, 溝上大輔, 塩谷 彰浩.	耳鼻いんこう科
Otolaryngol Head Neck Surg 140(6): p.816-821, 2009.01	Injection laryngoplasty with calcium phosphate cement.	Shiotani A, Okubo K, Saito K, Fujimine T, Tomifuji M, Ikeda A, KOJI Araki, Momoshima S.	耳鼻いんこう科
耳鼻と臨床 54(2): p.146-151, 2008.11	嚥下内視鏡・圧検査の有用性	唐帆健浩, 中島純子, 北川洋子, 塩谷 彰浩, 甲能直幸.	耳鼻いんこう科
頭頸部外科 18(2): p.193-198, 2008.10	Submental Island Flapによる咽頭再建を行った下咽頭癌症例	山下拓, 今西順久, 新田清一, 渡部高久, 和佐野浩一郎, 稲垣洋三, 塩谷 彰浩.	耳鼻いんこう科
日本耳鼻咽喉科学会会報 111(10): p.664-667, 2008.10	開放性喉頭外傷の1例	廣田稔治, 唐帆健浩, 田中伸明, 富藤 雅之, 田部哲也, 塩谷 彰浩.	耳鼻いんこう科
Ann Surg Oncol 15(9): p.2568-2575, 2008.09	Sentinel node concept in clinically n0 laryngeal and hypopharyngeal cancer.	Tomifuji M, Shiotani A, Fujii H, KOJI Araki, Saito K, Inagaki K, Mukai M, Kitagawa Yoko, Ogawa K.	耳鼻いんこう科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床矯正歯科医会雑誌 20(2): p.8-17, 2009.02	下顎の位置決め,骨片固定をはじめに行う上下顎移動術.	松岡伸也, 武藤壽孝, 佐藤泰則, 山崎敦永, 東海林貴大, 吉田青永.	歯科口腔外科
Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery 20(2): p.135-139, 2008.12	Two Oral Cancer Patients Who Responded to Chemotherapy Consisting of TS-1.	Sato Yasunori, Nakajima Junko, Muto Toshitaka, Shuri Hada.	歯科口腔外科
J Oral Maxillofac Surg 66(6): p.1099-1103, 2008.06	Accuracy of predicting the pharyngeal airway space on the cephalogram after mandibular setback surgery.	Toshitaka Muto, A Yamazaki, Shigehiro Takeda, Yasunori Sato.	歯科口腔外科
J Oral Maxillofac Surg 66(6): p.1309-1315, 2008.06	The modified intraoral inverted L osteotomy: a technique for good visibility, greater bony overlap and rigid fixation.	Toshitaka Muto, Kazuki Akizuki, Yasuo Tsuchida, Yasunori Sato.	歯科口腔外科
The open Dentistry Journal, 2008 2: p.78-88, 2008.05	Carbonyl Reductase 3 (CBR3) Mediates 9-cis-Retinoic Acid-Induced Cytostasis and is a Potential Prognostic Marker for Oral Malignancy.	Shuri Hada, Nobuo Kondoh, Akiyuki Hada, Masaaki Arai, Yutaka Yamazaki, Masanobu Shindoh, Yoshimasa Kitagawa, Masayuki Takahashi, Toshifumi Ando, Yasunori Sato, Mikio Yamamoto.	歯科口腔外科
Int J Oral Maxillofac Surg 37(5): p.419-423, 2008.05	Effect of bilateral sagittal split ramus osteotomy setback on the soft palate and pharyngeal airway space.	Toshitaka Muto, A Yamazaki, Shigehiro Takeda, Yasunori Sato.	歯科口腔外科
Molecular Carcinogenesis 47: p.744-756, 2008.04	Gene Expression Signatures That Classify the Mode of Invasion of Primary Oral Squamous Cell Carcinoma.	Nobuo Kondoh, Toshio Ishikawa, Shuri Ohkura, Masaaki Arai, Akiyuki Hada, Yutaka Yamazaki, Yoshimasa Kitagawa, Masanobu Shindoh, Masayuki Takahashi, Toshifumi Ando, Yasunori Sato, Toshiyuki Izumo, Kiyotaka Hitomi, Mikio Yamamoto.	歯科口腔外科
International Journal of Oral and Maxillofac Surgery 37: p.228-231, 2008.11	A cephalometric evaluation of the pharyngeal airway space in patients with mandibular retrognathia, prognathia and normal subjects.	Toshitaka Muto, Atsue Yamazaki, Shigehiro Takeda.	歯科口腔外科
J Oral Maxillofac Surg 66(7): p.1542-1544, 2008.11	Technical modification designed to facilitate sagittal split ramus osteotomy.	Toshitaka Muto, Kazuki Akizuki, Yasuto Tsuchida.	歯科口腔外科
耳鼻と臨床 54(2): p.146-151, 2008.11	嚥下内視鏡・圧検査の有用性.	唐帆健浩, 中島純子, 北川洋子, 塩谷彰浩, 甲能直幸.	歯科口腔外科
日本補綴歯科学会誌 52: p.0-0, 2008.07	パラタルランプを用いて咀嚼機能回復を行った下顎骨区域切除再建症例.	中島純子.	歯科口腔外科
Oncology Reports 21(2): p.443-449, 2009.02	Cross-resistance of platinum derivatives in H-1R, a cisplatin-resistant cell line.	Negoro K, Yamano Y, Nakashima D, Saito K, Nakatani K, Shiiba M, Bukawa H, Yokoe Hidetaka, Uzawa K, Wada T, Tanzawa H, Fujita S.	歯科口腔外科
Human Pathology 40(1): p.83-91, 2009.01	Overexpression and altered subcellular localization of autophagy-related 16-like 1 in human oral squamous-cell carcinoma: correlation with lymphovascular invasion and lymph-node metastasis.	Nomura H, Uzawa K, Yamano Y, Fushimi K, Ishigami T, Kouzu Y, Koike H, Shiiba M, Bukawa H, Yokoe Hidetaka, Kubosawa H, Tanzawa H.	歯科口腔外科
Oncology Reports 19(6): p.1429-1434, 2008.06	PTEN expression and methylation status in oral squamous cell carcinoma.	Kurasawa Y, Shiiba M, Nakamura M, Fushimi K, Ishigami T, Bukawa H, Yokoe Hidetaka, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科口腔外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Oncology 32(5): p.1001-1009, 2008.05	Hyaluronan-mediated motility: a target in oral squamous cell carcinoma.	Yamano Y, Uzawa K, Shinozuka K, Fushimi K, Ishigami T, Nomura H, Ogawara K, Shiba M, Yokoe Hidetaka, Tanzawa H.	歯科口腔外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Plastic Surgery 62(3): p.317-321, 2009.03	Accelerated wound healing in healing-impaired db/db mice by autologous adipose tissue-derived stromal cells combined with atelocollagen matrix.	Masaki Nanbu, Satoko Kishimoto, Shingo Nakamura, Hiroki Mizuno, Satoshi Yanagibayashi, Naoto Yamamoto, Ryuichi Azuma, Sinichiro Nakamura, Tomoharu Kiyosawa, Masayuki Ishihara, Yasuhiro Kanatani.	形成外科
Journal of biomedical materials research. Part A 85(3): p.619-627, 2008.06	Effect of controlled release of fibroblast growth factor-2 from chitosan/fucoidan micro complex-hydrogel on in vitro and in vivo vascularization.	Shingo Nakamura, Masaki Nanbu, Takamitsu Ishiduka, Hidemi Hattori, Yasuhiro Kanatani, Bonpei Takase, Satoko Kishimoto, Yoshiko Amano, Hiroshi Aoki, Tomoharu Kiyosawa, Masayuki Ishihara, Tadaaki Maehara.	形成外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Emerg Med. 2008 Nov 6. [Epub ahead of print]: p.[Epub]-[Epub]. 2008.12	Analysis of Prehospital Care for Cardiac Arrest in an Urban Setting in Japan..	Yanagawa Youichi, Sakamoto Toshihisa.	救急部
J Trauma 65(3): p.589-594, 2008.09	Indications for Transcatheter Arterial Embolization in Persistent Hemothorax caused by Blunt Trauma.	Hagiwara Akiyoshi, Yanagawa Youichi, Kaneko Naoyuki, Takasu Akira, Hatanaka K., Sakamoto Toshihisa, Okada Yoshiaki.	救急部
Pediatric Emerg Med J 24(6): p.351-3, 2008.06	Predicting the development of anemia by measuring the diameter of the inferior vena cava for children with blunt injuries.	Yanagawa Youichi, Sakamoto Toshihisa.	救急部
Am J Emerg Med 26(4): p.446-9, 2008.04	Predicting the development of anemia by measuring the diameter of the inferior vena cava of patients with spinal cord injury.	Hatanaka K., Yanagawa Youichi, Sakamoto Toshihisa, Okada Yoshiaki.	救急部
Emerg Radiol 15(6): p.1435-1438, 2008.10	Transcatheter arterial embolization is effective for mesenteric arterial hemorrhage in trauma.	Hagiwara Akiyoshi, Takasu Akira.	救急部
防衛衛生 55(6): p.75-8, 2008.06	両側縮瞳と意識障害を来した薬物中毒の一例.	柳川洋一, 高須朗, 西紘一郎.	救急部
Acta Neurochir Suppl. 102: p.385-399, 2008.12	Up-regulation of L type amino acid transporter 1 after spinal cord injury in rats.	Terushige Toyooka, Hiroshi Nawashiro, Nariyoshi Shinomiya, Akiko Yano, Hidetoshi Ooigawa, Atsushi Ohsumi, Yoichi Uozumi, Youichi Yanagawa, Hirotaka Matsuo, Katsuji Shima.	救急部
J Trauma 65(2): p.373-379, 2008.09	Cervical Spinal Cord Injury Without Bony Injury: A Multicenter Retrospective Study of Emergency and Critical Care Centers in Japan.	Hiroshi Kato, Akio Kimura, Ryo Sasaki, Kaneko Naoyuki, Munekazu Takeda, Hagiwara Akiyoshi, Shinji Ogura, Takashi Mizoguchi, Tetsuya Matsuoka, Hidehumi Ono, Kenji Matsuura, Kazuhide Matushima, Shigeki Kushimoto, Akira Fuse, Toshio Nakatani, Masaaki Iwase, Junmei Fudoji, Takeshi Kasai.	救急部
Surgery 143(5): p.616-622, 2008.05	Anatomic variations of the renal vessels pertinent to transperitoneal vascular control in the management of trauma.	Naoyuki Kaneko, Yasushi Kobayashi, Yoshiaki Okada.	救急部

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本整形外科スポーツ医学会雑誌 29(1): p.50-53, 2009.02	大腿骨膝蓋骨溝における骨軟骨病変に対してモザイクプラスティを行った1例.	三尾健介, 金子大毅, 小林龍生, 根本孝一.	リハビリテーション部

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Modern Pathology 22: p.499-507, 2009.03	Actinin-4 gene amplification in ovarian cancer: a candidate oncogene associated with poor patient prognosis and tumor chemoresistance.	Sohei Yamamoto, Hitoshi Tsuda, Kazufumi Honda, Kaoru Onozato, Masashi Takano, Seiichi Tamai, Issei Imoto, Joji Inazawa, Tesshi Yamada, Osamu Matsubara.	検査部
日本臨床検査自動化学会誌 34 (1): p.91-98, 2009.01	マルチウェーブ検出方法を用いた全自動血液凝固測定装置 CS-2100i の基礎的検討.	坂場幸治, 鈴木洋司, 宮本和典, 林克次, 西園寺克, 玉井誠一.	検査部
American Journal of Surgical Pathology 32(10): p.1489-1494, 2008.10	Solitary peripheral ciliated glandular papillomas of the lung, a report of 3 cases.	Aida Shinsuke, Ohara Ichiyo, Shimazaki Hideyuki, Dai Yuichi, Ogata Sho, Ozeki Yuichi, Tamai Seiichi.	検査部
日本検査血液学会雑誌 9(2): p.188-203, 2008.07	1.形態検査学の立場から見た分子標的療法.	坂場幸治, 鈴木洋司, 林克次, 西園寺克, 玉井誠一.	検査部
日本臨床細胞学会埼玉県支部会誌 26: p.22-25, 2008.07	判定に苦慮した甲状腺悪性リンパ腫の1例.	直井美穂, 遠藤久子, 島崎英幸, 轟勇一, 相田真介, 玉井誠一.	検査部
Journal of Pathology 216(1): p.103-110, 2008.06	Clear-cell adenofibroma can be a clonal precursor for clear-cell adenocarcinoma of the ovary: a possible alternative ovarian clear-cell carcinogenic pathway.	Yamamoto Sohei, Tsuda Hitoshi, Takano Masashi, Hase Kazuo, Tamai Seiichi, Matsubara Osamu.	検査部
Metabolism 57(5): p.650-657, 2008.05	Increasing physical fitness does not proportionally decrease circulating C-reactive protein level in men with varying fitness.	Nakajima Kei, Kusuhara Masatoshi, Yonemura Atsushi, Ayaori Makoto, Saiorji Katsu, Tamai Seiichi, Ohsuzu Fumitaka.	検査部
Jpn J Radiol 27(2): p.107-110, 2009.03	Pulmonary and thymic lymphoid hyperplasia in primary Sjogren's syndrome.	Kobayashi Hideo, Ozeki Yuichi, Aida Shinsuke.	検査部
J Natl Def Med Coll: p.23-29, 2009.03	Solitary jejunal metastasis from esophageal squamous cell carcinoma, a case report.	Takuya Horio, Satoshi Aiko, Yoshitaka Kadoma, Norishige Kanai, Takamitsu Ishizuka, Hideyuki Shimazaki, Shinsuke Aida, Kazuo Hase, Tadaaki Maehara.	検査部
埼玉県医学会雑誌 43(2): p.460-465, 2009.02	ホルモン産生卵巣腫瘍 - 細胞診の観点から	笹秀典, 渡邊昭夫, 今井加納子, 加藤雅史, 吉川智之, 高野政志, 直井美穂, 相田真介, 古谷健一.	検査部
American Journal of Surgical Pathology 32(10): p.1489-1494, 2008.10	Solitary peripheral ciliated glandular papillomas of the lung, a report of 3 cases	Aida Shinsuke, Ohara Ichiyo, Shimazaki Hideyuki, Dai Yuichi, Ogata Sho, Ozeki Yuichi, Tamai Seiichi.	検査部
気管支学 30(5): p.257-260, 2008.09	予後良好な気管支平滑筋肉腫の1例.	三木田 馨, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一, 相田真介.	検査部
Ann Nucl Med 22: p.521-524, 2008.08	18F-FDG-PET/CT as an indicator for resection of pulmonary epithelioid hemangioendothelioma.	Sadahiro Watanabe, Fuzuki Yano, Tamotsu Kita, Shigeyoshi Soga, Hiroshi Shinmoto, Shigeru Kosuda, Yuichi Ozeki, Shinsuke Aida, Ikuko Sakata.	検査部
気管支学 30(2): p.80-85, 2008.04	陰影が入院後改善し, 外治により悪化した Mycobacterium avium 症.	恐田尚幸, 小林英夫, 叶宗一郎, 元吉和夫, 尾関雄一, 相田真介.	検査部

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Nucl Med 22: p.521-524, 2008.08	18F-FDG-PET/CT as an indicator for resection of pulmonary epithelioid hemangioendothelioma.	Sadahiro Watanabe, Fuzuki Yano, Tamotsu Kita, Shigeyoshi Soga, Hiroshi Shinmoto, Shigeru Kosuda, Yuichi Ozeki, Shinsuke Aida, Ikuko Sakata.	放射線部
核医学 45: p.115-118, 2008.05	131I内用療法に対するDPC包括医療の健康保険診療報酬の変化について.	国島正晃, 坂口千春, 喜多保, 渡辺定弘, 矢野文月, 曾我茂義, 新本弘, 小須田茂.	放射線部
International Heart Journal 50(2): p.263-266, 2009.03	Late Gadolinium Enhanced HighResolution Magnetic Resonance Imaging Reveals Pathophysiological Condition of Cardiac Sarcoidosis.	Niida Tomiharu, Isoda Kikuo, Sasaki Makoto, Horikawa Masahiro, Hayashi Katsumi, Ohsuzu Fumitaka.	放射線部

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床外科学会雑誌 70(1): p.108-112, 2009.01	MDCTが診断に有用であった平滑筋腫を伴う Meckel憩室炎の1例.	藤野啓一, 山崎民大, 島崎英 幸.	総合臨床部

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Nucleic Acids Res. 2009;37(Database issue):D863-7.	RAPID: Resource of Asian Primary Immunodeficiency Diseases.	Keerthikumar S, Raju R, Kandasamy K, Hjikata A, Ramabadrn S, Balakrishnan L, Ahmed M, Rani S, Selvan LD, Somanathan DS, Ray S, Bhattacharjee M, Gollapudi S, Ramachandra YL, Bhadra S, Bhattacharyya C, Imai K, Nonoyama S, Kanegane H, Miyawaki T, Pandey A, Ohara O, Mohan S.	医療情報部
BMC Med Genet. 2008;9:42.	Immunological profile in a family with nephrogenic diabetes insipidus with a novel 11 kb deletion in AVPR2 and ARHGAP4 genes.	Fujimoto M, Imai K, Hirata K, Kashiwagi R, Morinishi Y, Kitazawa K, Sasaki S, Arinami T, Nonoyama S, Noguchi E.	医療情報部
Int J Hematol. 2008;87(1):75-7.	Evans syndrome in a patient with Langerhans cell histiocytosis: possible pathogenesis of autoimmunity in LCH.	Tsuji Y, Kogawa K, Imai K, Kanegane H, Fujimoto J, Nonoyama S.	医療情報部

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 望月 英隆		
管理担当者氏名	庶務課長 戸祭 哲夫	医事課長 井上 裕雄	
	薬剤部長 菅野 秀明	医療情報部長 多島 新吾	

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 医療情報部 薬剤部 手術部 看護部	カルテ等の病歴資料は医療情報部で一括管理をしている。外来カルテは診療科ごと、入院カルテは入院期間ごとに作成され、電算機に登録管理されており、保存期間は10年である。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	文書管理規則等に基づき、各担当課において、作成部署・文書分類番号・保存期間等を記入し管理している。	
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
	高度の医療の研修の実績	教務課		
	閲覧実績	庶務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部		
	の規則第9条の2及び第1条の11各号に掲げる体制確保	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況		感染対策室
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全推進室
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		医事課		
医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全推進室		
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		庶務課		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全推進室		
医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室			

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	材料部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	材料部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	材料部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	材料部		

文書管理規則等に基づき、各担当課において、作成部署・文書分類番号・保存期間等を記入し管理している。

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 望月 英隆
閲覧担当者氏名	各診療科部長 庶務課長 医事課長 薬剤部長 教務課長
閲覧の求めに応じる場所	病院第3会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	63.3%	算定期間	平成20年 4月 1日～平成21年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		11,307人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		5,272人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,997人
	D：初診の患者の数		25,677人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの数の和をBとDの和で除した数に100を乗じて少数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (2名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任(2)名 兼任(10)名 ・ 活動の主な内容： (1) インシデント・アクシデント報告書の収集、分析、集計等を行い、内容の確認及び再発防止に関する検討 <li style="padding-left: 40px;">(2) インシデント事例再発防止策の職員への周知・確認 <li style="padding-left: 40px;">(3) 職員の医療安全に関する研修の企画立案及び実施 <li style="padding-left: 40px;">(4) 安全管理マニュアルの作成及び修正 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <li style="padding-left: 40px;">医療事故防止対策及び医療事故発生時等の対応方法についてのシステム構築、職員の心構え、事故報告及び安全管理のための組織体制、教育、患者対応等の基準について定めている。 	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <li style="padding-left: 40px;">(1) 病院内における安全管理のための指針の整備等、医療事故を防止するために必要な方策及び医療事故が発生した場合における対応要領に関すること。 <li style="padding-left: 40px;">(2) 病院内における安全管理のための医療事故、インシデント等の報告制度の整備等に関すること。 <li style="padding-left: 40px;">(3) 安全管理の体制確保のために必要な職員の教育、研修制度の整備及び実施要領に関すること。 	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： (1) 医療安全シンポジウム(対応困難な患者の対応の工夫) <li style="padding-left: 40px;">(2) 感染対策(新型インフルエンザ、結核とその院内予防について) <li style="padding-left: 40px;">(3) 医療機器取り扱いについて(人工呼吸器、経管栄養チューブの管理) 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <li style="padding-left: 40px;">(1) 合併症事例等に係る報告の義務化及び、オカレンス報告項目の追加 <li style="padding-left: 40px;">(2) ハイリスク事例報告の再発防止策を、当該部署のスタッフと推進室メンバーと一緒に分析、検討 	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容:</p> <p>院内感染防止体制を確保し、院内感染の未然防止及び発生時の迅速かつ適切な対処により医療の安全性を図るための組織、活動、対策マニュアルの整備、発生時の対応、報告等についての基準を定めている。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<p>・ 活動の主な内容:</p> <p>(1) 院内感染対策、対処の方針等に関すること</p> <p>(2) 院内感染管理体制の整備に関すること</p> <p>(3) 集団発生する恐れのある感染症の対策に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容:</p> <p>(1) 標準予防策とMRSA対策</p> <p>(2) 新型インフルエンザ</p> <p>(3) TDMを利用しよう</p> <p>(4) 結核と院内感染対策</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容:</p> <p>ポケット版の感染対策マニュアルを作成し職員全員に配布、感染対策の指針等の周知徹底を図った。</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
<p>・ 研修の主な内容: (1) 麻薬施用者講習会 (2) 薬剤部業務と医薬品安全使用 (3) TDM:抗菌剤の有効性、安全性を考慮して (4) 薬剤に関するインシデント・アクシデント事例 (5) がん薬物療法新システム説明会 (6) 抗がん剤のオーダーリング-医療事故防止のポイント (7) 医療用麻薬製剤の取り扱い</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)・無) ・ 業務の主な内容: (1) 医薬品の採用 (2) 医薬品管理 (3) 調剤/持参薬管理 (4) 薬剤管理指導業務 (5) 医薬品情報 (6) 地域薬剤師会との連携</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: (1) 厚労省から「医薬品安全性情報」、総合機構から「医薬品安全対策情報」を入手するほか、日本病院機能評価機構の「医療安全情報」などの医療安全に関する情報を収集している。 (2) 収集した情報のうち必要なものについて、各病棟・診療科などに注意喚起文書として印刷物で配布するとともに個人宛にメールで配信。特に重要なものは「医療安全推進室ニュース【重要】」に掲載し確認サインにより、周知を図っている。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 10回
<p>・ 研修の主な内容： (1) 初任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理 (2) 使用者に対する機器操作と安全管理 (3) 機器導入時の操作法と安全管理 (4) 病院職員対象機器説明会 (5) 使用現場巡回安全管理指導</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (○有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部署で分担又は部外委託で実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 病院ホームページから閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。 また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。</p>	